

一般選抜出題のねらい

国語

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される国語の目標や内容に準拠し、知識・技能、思考力・判断力・表現力ならびに大学で必要とされる国語の基礎力を多角的・総合的に問う内容を出題します。

●出題形式・分野

現代文（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章など）から2題と古典より古文1題（漢文は除く）を、高校の学習範囲内で出題します。また一つの題材だけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた複数の題材による問題が含まれます。

なお、解答の形式は、選択方式と記述方式を併用します。

英語

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される英語の目標や内容に準拠し、知識・技能、思考力・判断力・表現力ならびに大学で必要とされる英語の基礎力を多角的・総合的に問う内容を出題します。

●出題形式・分野

異なるタイプの英文（会話、メールや手紙、物語、エッセイ、掲示物、図表等を含む説明文、その他）を使った問題を2問出題します。英文から必要な情報を読み取る力や、概要や要点を把握する力等を問うものとします。英文に則して、自分の考えを理由をつけて説明する設問も含まれます。なお、従来行ってきた「発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題」は出題しません。またリスニングテストは行いません。

歴史総合、日本史探究

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される地理歴史の目標や内容に準拠し、基礎的な知識・技能の定着度を測るとともに思考力・判断力・表現力を問う内容を出題します。その際、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視し、用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、日本史を中心に総合的に考察する力を問います。

●出題形式・分野

日本史探究から2題、歴史総合から日本史分野と世界史分野それぞれ2題を高校の学習範囲内で出題します。なお歴史総合の2題については、どちらかを選択して解答するものとします。解答の形式は、選択方式と記述方式を併用します。

（大問1と2）日本史探究から出題（大問3-1）歴史総合のおもに日本史分野（大問3-2）歴史総合のおもに世界史分野

※大問3-1と大問3-2はどちらか選択

公共・政治・経済

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される公民の目標や内容に準拠し、基礎的な知識・技能の定着度を測るとともに思考力・判断力・表現力を問う内容を出題します。その際、文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方を活用して考察する力を問います。

●出題形式・分野

公共の領域から1題、政治・経済のうち政治的分野から1題、経済的分野から1題の3問構成とします。解答の形式は、選択方式と記述方式を併用します。

数学Ⅰ

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される数学の目標や内容に準拠し、基礎的な知識・技能の定着度を測るとともに思考力・判断力・表現力ならびに大学で必要とされる数学の基礎力を多角的・総合的に問う内容を出題します。

●出題形式・分野

学習指導要領に基づき、数と式（集合と命題を含む）、図形と計量、二次関数、データの分析から各1題出題します。内容は、高校教科書の例題・練習問題レベルを中心に章末問題レベルまでを含みます。解答の形式は、答えのみの記述式とします。

情報Ⅰ

●出題のねらい

本学のAP（入学者受入れの方針）ならびに高等学校学習指導要領に示される情報Ⅰの学習の目的や内容に準拠し、基礎的な知識・技能の定着度を測るとともに思考力・判断力・表現力ならびに大学で必要とされる情報の基礎力を多角的・総合的に問う内容を出題します。

●出題形式・分野

学習指導要領に示された4つのカテゴリー（①情報社会の問題解決②コミュニケーションと情報デザイン③コンピュータとプログラミング④情報通信ネットワークとデータの活用）からそれぞれ大問形式で出題します。プログラミング言語はDNCL（共通テスト手順記述標準言語）を使用します。なお、解答の形式は記号記入式（数字か記号の記入）とします。

※この2025年度入学試験問題集には、2026年度入学者選抜の試験科目で実施予定の「国語」「英語」「歴史総合、日本史探究」「公共・政治・経済」「数学Ⅰ」「情報Ⅰ」を掲載しています。「地理総合、地理探究」と「歴史総合、世界史探究」の試験問題をご希望の方は、入試・広報班（TEL：092-925-3591）へお問い合わせください。

【1】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『徒然草』といえは十四世紀に書かれた兼好法師の名エッセイだが、そのなかで彼は次のように言ふ。

春夏秋冬という四季は順を追つてうり変つてゆく。しかし、人間の死はふいに、突然やつてくるものだ。

死は顔に向けて堂々と正面から向かつてくるのではない。すでに前々から人間の「ハイ」にのび寄つてゐるものである。人間は誰しも死ぬことを知つてはいるが、現実のこととして考えないうちに、突如として訪れてくる。

まるで満ち潮のようではないか。沖からだんだんに潮が満ちてくるのではない。気がつくといふ足許がもう潮にひたされてゐるのと同じである。

これは人間の死を語つて、他の道徳を許さない名言ではないか、いつのまにか後ろからしのびよつてくる死——「死は前よりしも来らず、かねて後^②に迫れり」。

兼好のこのことばによると、われわれは意識する、しないにかかわらず、いつも生が死に侵されてゐることになる。むしろ、何がしかの死を抱いて生きてゐるといった方が、満ち潮としての死にかなうであろう。老若男女、すでに生まれた瞬間に死もその足を運びはじめ、死は生を「シヤダン」してやつてくるのではなく、生はいつか死と首座をかえて衰えてゆくにすぎない。日本人が死を「しぬ」ということばで現わしたのも、その観想の一つにすぎないだろう。われわれの生命は「養^③える」だけなのである。

しかもこの考えは、何も兼好一人のものではない。すぐれた思索者の多くが到達した境地であつたが、その一つを次のような形で見ることができよう。英文学者工藤好美氏のいうところによると、ウォールター・ペイターは「死の意識と美の欲求、死の意識によつて促進された美の欲求が芸術主義の本質」だと考へるという(『ウォールター・ペイター研究』)。すると、これはかの俳人松尾芭蕉が「昨日の発句は今日の辞世、今日の発句は明日の辞世、わが生涯ひひすてし句として辞世ならざるはなし」といったのと、同じ思想の過程の或るものを持つていたと工藤氏は考へる。

A 芸術における死と美との結婚は、必ずしも狭い意味の美と限定せずともよいであろう。美を芸術の表現すべきもの、きわめて生命的な表現物の、その極限のものと考へると、ペイターと芭蕉とを結ぶものは、先にあげた兼好の生命観と通底するものがある。生と死の結合は何も日本中世の思想家のトクシユな考へではなかつたのである。

死へのまなざしをもつことによつて生を充足せしめた例は、例の西行法師の歌、春の望月の夜桜の許で死にたいと願つた歌をその一例とすることができよう。西行において、花・月は、彼の往生曼陀羅の図柄であつた。西行はこの願望どおりに死んで、世人の賛嘆をうけた。当時、高僧たちはいかに美しく死ぬかに、最後の心熱をもやしてゐたから、賛嘆はきまつたのである。

B あるいはまた、近代に到つても、俳人三橋鷹女が、白露や死んでゆく日も帯締めて

といったことも、死と生との往返^④に生きる日常の詩心を、訴えたものであろう。

しかし、われわれがいまわの際という一瞬を迎へることもまた、事実である。この瞬間が重要であるのは、生がいかに死を抱きかかへてゐるにしても、万人共通の理論を拒否しつゝ、いまわの際に全く個人のものである点によつていよう。死はとりわけて個人のものである。個人にとつての死は、抽象化された理論としての死とは別物なのである。

この、死が個人のものであることを「死のうちにのれ自身を認める」という巧みな表現で捉へたのは、フイリップ・アリエス『死と歴史』であつた。アリエスは、かつて死を当然のことと考へた人々にあつた死を「飼^⑤いなされた死」とよぶが、これは中世の中頃以後変化し、「自身の死という鏡のうちに、各個人が己の個性の秘密を再発見」するようになったと説く。そうした死を「己の死を発見した」といふ。

このような己の死は、いろいろな手段によつて発見されるだろう。葬送の仕方によつても、墓碑銘^⑥のあり方によつても、日本において、とりわけて発見に熱心だつたのは、上にのべた高僧とよばれる人々だつたと思はれる。むしろ彼らは、発見に最後の行の完了を見ようとしたことだつた。

すると、己の死の発見が最後のこととなることも、当然であろう。死という極限の状況の中でどのように個別の生と外イオウし、それをどう表現するかが、そのことばにかかつてゐるのだから。

おそらく、そのことをいつたのが有名な『論語』のことばであらう。

鳥のまさに死なんとするや、その鳴くこと哀し。人のまさに死なんとするや、その言ふこと善し。

いま曾子^⑦が「ヨウシヨウ」にあり、彼は見舞いにおとすれた孟敬子にこつ言つたという。なぜ死にのぞんだことばがよいのか、『論語』は何も説明しないが、おそらく死が鳥をも人間をも純粋にするからであらう。もつとも純粋に自己と対面し、もつとも純粋に自己を訴えようとするのではないか。

辞世とは、この純粋な自己 D のことばである。

(中西進『辞世のことば』による。一部改変)

- (注)
- 1 観想——そのものの真の姿をとらえようとして、思ひを凝らすこと。
 - 2 ウォールター・ペイター——十九世紀のイギリスの批評家、小説家。
 - 3 春の望月の夜桜の許で死にたいと願つた歌——「願はくは花の下にて春死なむそのきなきの望月のころ」(西行)
 - 4 フイリップ・アリエス——二十世紀のフランスの歴史学者。

問1 傍線部①～⑤の漢字の読みを、ひらがなで記しなさい。

問2 傍線部⑥～⑩のカタカナの部分で、漢字で記しなさい。

問3 傍線部Aについて「芸術における死と美との結婚」とはどのようなことですか。傍線部Aよりも前の本文中の表現を用いて二十字以内で説明しなさい。ただし、句読点を含みません。

問4 次の文章は傍線部Bの俳句の鑑賞文です。空欄a～hに入る最も適当な語を後の①～⑬のうちから選び、記号で答えなさい。同じ語を複数回使用してもかまいません。

この句は、昭和二十七年に刊行された句集『白骨』に収められている。明治三十二年生まれの鷹女は、このとき五十三歳であった。鷹女は、戦後、死に近づきつつあるaや諦観を詠嘆する句を多数残している。「白露」はbの季語であり、cの光や死のイメージがつきまとう語である。「や」というdによって、感情の頂点が、この「白露」にあることが理解できる。しかし、この句は終末を表現するだけではない。「帯締め」には、死と向き合いつつも、凛として日常を生きぬくeが表明されている。「帯」は、明治に生まれた女性としての美意識やfに臨みながらも引き締まる日常を喚起する。ひたひたと迫りくる死を深く意識し、日常の生を強くいとなみ続ける鷹女にとって、gとはhを輝かせるためのまなざしであったとも言える。

- ①世界観 ②無常観 ③他界観 ④春 ⑤秋 ⑥冬 ⑦生 ⑧老い ⑨病い ⑩死 ⑪当て字 ⑫置き字 ⑬切れ字 ⑭決意 ⑮目的 ⑯選択

問5 傍線部Cについて、「飼いならされた死」を別の表現で言い換えた最も適当な箇所を、十五字以内で抜き出さなさい。ただし、句読点を含みません。

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つを選び、記号で答えなさい。

- ① 生と死との結合は、日本中世の思想家に限定される考えではなく、芸術主義の本質であり、己の死を表現する万人共通の理論と考えられる。
- ② 西行ら高僧たちは、いかに美しく死ぬかに心熱をもやし、己の死を様々な手段によって発見することに最後の行の完了を見ようとした。
- ③ 兼好は、いつのまにか後ろからしのびよってくる死へのまなざしをもつことによって、願望通り生を充足させることができると言った。
- ④ いまわの際という一瞬は、沖からだんだんに潮が満ちてくるのではなく、気がつくとき足許がひたされているような満ち潮としての死の極限である。
- ⑤ 兼好の生命観は、すぐれた思考者の多くが到達した境地であり、ペイターや芭蕉の芸術に対する考え方と通底するものがある。
- ⑥ 美をきわめて生命的な表現物の極限のものと考えると、兼好をはじめ西行や三橋鷹女のごとは、死が個人のものであることを示すものと理解できる。

問7 空欄Dに入る最も適当な漢字二字の言葉を本文中から探し、そのまま抜き出して書きなさい。

【二】 次の問いに答えなさい。

問1 次のア～ケの文学作品の作者を次の①～⑨のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア『山月記』 イ『破戒』 ウ『羅生門』 エ『たけくらべ』 オ『山椒魚』

- カ『金閣寺』 キ『高瀬舟』 ク『暗夜行路』 ケ『銀河鉄道の夜』

- ①宮沢賢治 ②志賀直哉 ③井伏鱒二 ④森鷗外 ⑤中島敦 ⑥芥川龍之介 ⑦島崎藤村 ⑧三島由紀夫 ⑨樋口一葉

問2 例にならって次の①～③の俳句の季語を抜き出し、該当する季節（春夏秋冬）を書きなさい。

- 例 ビストルがフルの硬き面（に）ひびき 季節・ブール 季節・夏
- ① 海に出て木枯帰るところなし
- ② 鮮雲人に告ぐべきことならず
- ③ 黄金虫郷つ開の深さかな

【三】 課題作文

下の表は、令和二年度「国語に関する世論調査（文化庁）」の調査内容とその結果をもとに作成したものです。この表から分かること考えたことを、あとの条件にしたがって書きなさい。

（条件）

- 1 原稿用紙の正しい使い方をしなかつて、タテ書きで書くこと。
- 2 ① 一段落構成とすること。 ② 一段落目には、この表から分かる「タテ書き」で書くこと。
- 3 ③ 一段落目には、それについてあなたが考えたことを書くこと。
- 4 題・氏名を書かないで、本文から書き始めること。

「あなたは、パソコンやスマートフォンなどの情報機器の普及によって、社会における言葉や言葉の使い方が影響を受けると思いますか。それとも、そうは思いませんか。」という問いに対し、「影響を受けると思う」と答えた人（全体の90.6%）を対象に、「では、どのような形で影響があると思いますか。」（いくつでも回答可）と質問した結果

